BCG予防接種について

◆BCG（結核の予防）とは

結核は、菌陽性肺結核患者がせきをした時などに、飛散する菌で飛まつ感染する病気です。

わが国の結核は、かなり減少しましたが、まだ2万人を超える患者が毎年発生しており、大人から子どもへ感染することも少なくありません。

また、結核に対する抵抗力はお母さんからもらうことができませんので、生れたばかりの赤ちゃんもかかる心配があります。

乳幼児は、結核に対する抵抗力が弱いので、全身の結核症や結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残すこととなります。

BCG予防接種を受けることによって、結核性髄膜炎などは80%、肺結核も50%は予防できるのです。

【対象年齢・標準的な接種期間・回数】

対象年齢	1歳未満
標準的な接種期間	生後5か月から8か月未満
接種回数	1回

【BCG接種方法】

BCGは、牛型結核菌を弱めた生ワクチンを、管針法といってスタンプ方式で上腕の2ヶ所に押し付けて接種します。

【注意事項】

- ① BCG接種をしたところは、直射日光を避け完全に乾くまで衣服を着せないでください。（10分程度で乾きます）
- ② 接種当日の入浴は差し支えありませんが、接種したところをこすることやひっかくことはしないでください。

【BCG接種後の経過と副反応について】

接種後10日頃に接種したところに赤いポツポツができ、一部に小さいうみができることがあります。この反応は、接種後1か月頃に最も強くなりますが、その後は、かさぶたができて接種後3か月までにはなおり、小さな傷跡が残るだけになります。包帯をする、バンソウコウを貼る等はせず清潔を保つようにしてください。自然に治りますが、3ヶ月を過ぎても接種のあとがジクジクして膿んでいるような時は医師に相談してください。

副反応としては、接種をした側のわきの下のリンパ節がまれに腫れることがあります。通常、放置して様子を見て構いませんが、時にただれたり、大変大きく腫れたり、まれに化膿して自然にやぶれて膿がでることがあります。その場合は医師に相談してください。

【接種後の反応が早く出た場合】

お子さんが結核にかかっていた場合には、接種後1日から10日以内に接種したところの発赤・腫れ及び針跡部分が化膿を来すような反応が起こることがあります。（通常2週間から4週間後におさまります）これをコッホ現象といいます。

コッホ現象と思われる反応が見られた場合は、接種を受けた医療機関を受診してください。